



いなば泰子 ニュース



1月22日(土) 林友の会(岡山市浜)の新春の集いに参加しました。例年になく良い天気にもくまれて、約200人の参加者でもちつきなどで盛り上がりました。障害者の医療費の負担増が考えられている時だけに、元気をだそうと声をかけあいました。

岡山県から岡山市への乳幼児医療費の補助率が六分の一にされたことに対し、五分の一に戻すように申し入れをする日本共産党岡山県議団と市議団
 中核市を理由に補助率を引き下げているのは岡山県くらいです。
 (右の写真、稲葉市議は左から八番目)



介護保険制度の見直しで 市、ホームヘルプサービス利用者の実態調査を約束

国会に提案されている介護保険制度の見直し案は、利用料の負担やサービスの見直し(介護予防給付の導入)などで利用者の負担が増える、今まで受けていたサービスがうけられなくなる、といった改悪案です。

例えば、特別養護老人ホームに入所している方は新たに食事代や部屋代を負担しなければならぬので、約三万五千円の負担増になります。減額していた方については、当面、今までどおりとさせることができず、しかし、ホームヘルプサービスの六%の利用料という措置もなくすことで、在宅の方の負担が増えます。私は十一月議会質問で、影響額がいくらになるのか、利用者の実態調査をすべきだ」と質問と提起をしました。

ホームヘルプサービス全体では、四千六百万円の負担になることがわかりました。個々の利用者への影響について、市は

実態を調べる約束をしました。

稲葉泰子

今後のスケジュール

- 2月
 18日(金) 2月議会本会議
 22日(火) 横井小、体育館・運動場竣工式
 25日(金) 共産党代表質問(田畑議員)

- 3月
 1日(火) 財田・竜の口9条の会
 3~9日 個人質問
 11日(金) 重税反対集会
 13日(日) 高島駅20周年記念
 15日(火) 2月議会閉会日
 16日(水) 幼稚園卒園式
 17日(木) 中学校卒業式
 18日(金) 小学校卒業式



岡北で九条署名と街頭宣伝

一月九日、北方の天満屋ハッピータウン前で、憲法九条を守る署名と街頭宣伝が行われました。三軒屋弾薬庫周辺住民の会が、地域の「九条の会」発足と毎月九日の行動を申し合わせて最初のとりみでした。

この日は、岡北地域の準備会と趣旨に賛同する十人が午後四時半から約一時間行動しました。

みんなの
声

憲法九条と平和への思い

子どもの宿題と憲法九条

恒久の平和を体現すると宣言した憲法九条が、私たちの生命と自由を守っている。大学一年の講義。

「憲法九条」とまっすぐに向き合った初めてのことだった。

子どもが小学生の頃、戦争体験を聞くという宿題を持ち帰った。

平和な日常は「憲法九条」で守られている。子どもと語りながら、

学生の時の気持ちを感じ出している。

そして今。「九条」は決して手放すまいぞと、若い時分の心持が強く蘇るのを感じている。(高島・M)



憲法9条の絵はがき

「9条の会」絵葉書ができました。江草昭治さん(祇園在住)の絵と立石憲利さん(総社市在住)の「岡山弁の憲法9条」が載り1組300円。注文は、とfax:086(424)9764 上は、絵葉書の1枚「とうろう流し」です。

憲法を拡大解釈しているのは政くる国はない。五兆円とも六兆円治家の責任！ 第二次世界大戦のともいう防衛費は、税金のムダ使「戦争責任」に、国家は明確な答え。そのお金が社会保障をはじめをしていない。過去の反省なくし 国民生活に回れば、どんなに豊か

とて憲法を変える必要はない。な社会になることか。(宇野・O)

隊の海外派兵は、国際貢献の履き違い。イラクなど自衛隊の海外派兵は、国際貢献の履き違い。イラク市民の要求医療や電気、ガス、水道などライフ

ライン復興は、自衛隊でなくともできる。結局、アメリカの要求に隷従していくまやかしだ。現実に日本を攻撃して

米軍岩国基地

見てまわって

岡山市 坪井あき子 (71歳)

新日本婦人の会の「岩国基地ウォッチング」に参加しました。三十七人が一台のバスで出発、昼前に「錦帯橋」に到着。散策と昼食のあと岩国基地へ。

山口県平和委員会の久米さんの案内で、フェンスに囲まれた広大な基地のまわりを歩きました。不気味な弾薬庫地帯、光る滑走路、りっぱな米兵の宿舎、「ペリースクール」とよばれている少人数級の小中学校。「思いやり予算」という名で税金が、在日米軍基地に湧水のように使われていると実感しました。

「遙かなるクリスマス」

年末恒例の紅白歌合戦は、年を追うごとにお祭り騒ぎがひどくなり、見る気も失せていた。が、大好きなさだまさしの声が流れてきて慌ててテレビの前へ、初めて聞く「遙かなるクリスマス」。画面に釘付けになり時間が止まったように思えた数分。あの馬鹿騒ぎのなかで、彼は敢えてこの歌を歌った！歌わざるを得なかった。この数分のみが、あの紅白の中で透明の光を放っていたように私には思えた。

一月ある日のNHK「夢音楽館」で、さだまさしが「今まで少しずつ思いを出してきたけどなかなか伝わらなくて、遥かなるクリスマス」でとうとう全部言っちゃいました」と語っていた。彼の平和への強い思いは、毎年夏に長崎のコンサート、一昨年春、同地にピースミュージアム開館などで表されている。

いろいろな形でいろいろな立場の人が平和を真剣に訴え行動していく。今、それが求められている。で、私には何が出来るだろう、年末以来、さだまさしの「遥かなるクリスマス」はずっと私に問いかけている。

ふん赤旗から転載。筆者は祇園在住。(2月11日付)

(幡多・S)